

農薬無散布試験区におけるヤマブドウ葉面の被害の推移について

1 研究のねらい

ヤマブドウの栽培において、病虫害の発生による葉量の低下は果実の品質や翌年の花芽に影響を与えるため、健全に生育させるためには農薬を適正に使用することが必要とされている。当センターでは病虫害の発生状況を把握するために農薬無散布試験区を設定して観察している。今回は、葉面について害虫被害の程度の推移を調査した。

2 調査方法と結果

調査方法：農薬無散布試験区内の62樹について、平成18年に5月（開葉期）から10月（落葉期）まで2週間に1度の調査を行った。虫害の程度について、無被害である「健全」、全体の葉の一部だけが被害を受けている「微害」、約4割が被害を受けた「中害」、5割以上の「激害」の4区分に分けて判定を行った。

- (1) 調査結果：5月下旬から徐々に「健全」は減少し、8月後半の調査では皆無となった。被害木は6月前半に「激害」が最大となったが、その後再び開葉したことから、8月には一次的に被害

が軽減されていた。各樹の被害推移は、微害から中害に至る悪化や悪化の繰り返しが多く、激害となる激化や激化の繰り返しや激害から回復した再び悪化した回復後悪化を含めると全体の7割以上が葉を食害されていた。

3 今後の進め方

今後も葉面の被害及び病虫害発生推移を観察し、防除を行うための資料とする。

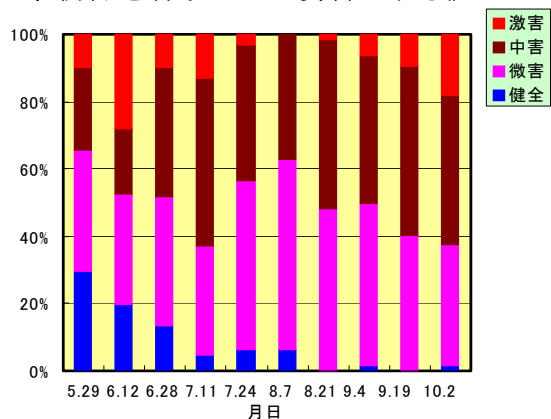


図-1 試験地内葉面被害木の推移 (全本数に占める比率)

注) 調査の都合上合計62本より少ない場合がある



写真-1 農薬無散布区の状況

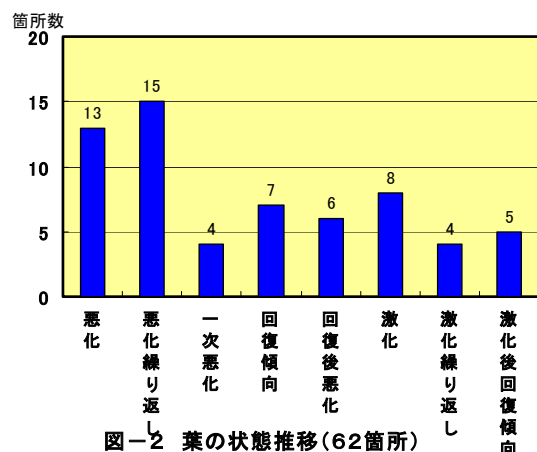


図-2 葉の状態推移(62箇所)

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割 560-11 TEL019(697)1536

岩手県林業技術センター

FAX019(697)1410

ホームページアドレス

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>